



国鉄北陸

国鉄労働組合 北陸地方本部
 (NTT)076-231-1506 (FAX)076-231-1114 (JR)065-2393
 (Mail)nru-hk@m2.spacelan.ne.jp
 発行人 藤野 能章
 編集人 山田 輝男

2025 春闘 働く者の生活に必要な賃上げの獲得に向け

職場・地域と団結して闘う方針を確立！

第141回拡大地方委員会開催

2月22日、石川県平和と労働会館において第141回拡大地方委員会を開催しました。

初めに国労北陸地本を代表して藤野委員長は「今年は戦後80年、阪神淡路大震災から30年、福知山線脱線事故から20年、能登半島地震から1年となる。被災地では豪雨災害も相まって復興もままならない状況にある。福知山線脱線事故以降会社は、「安全第一」を掲げ、命令と服従の異常な労務管理は影を潜めたようにみえるが、現状はコロナ禍や労働力不足を理由とした「合理化」「効率化」「機械化」「生産性向上」など、利用者や労働者にしわ寄せが及んでいる。みどりの窓口の閉鎖や削減で長蛇の列は、整理券方式に変えたことで、お客様が有効に時間を活用できるようになったと称賛しているが、一刻も早く切符を買いたい旅客に對しても、待ち時間に駅で物を買わせようと、更に利益をむしり取るうとして

いる。



2025年春闘で国労が掲げる17,000円の要求は、物価高等に対する最低ラインである。今、「労働組合とは何か」国労の真価が問われている。少数になった今こそ集まって相談や議論をしよう。」と挨拶しました。

大北西日本本部書記長挨拶

「第195回拡大中央委員会・第45回西日本本部委員会が開催され、6.1%相当額17,000円を基本とする春闘方針等を確認してきた。西日本会社・貨物会社に要求書を提出し現在交渉中である。職場を基礎に



全組合員の行動で成功させよう。また、この1年JR各社で、利用者や労働者の命を脅かす事象が相次いで発生した。鉄道の技術は長年の経験から培ったものでありすぐに解決できるものではない。安全に必要な要員、労働条件の改善に向け労働組合の役割を果たしていこう。」と挨拶しました。

委員会は、森川委員を議長に選出し、各委員が職場や機関の発言を行い、太田書記長が「まとめ」を報告し、藤野委員長が「ガンバリ三唱」で力強く締めくくられました。